

# 今 和次郎（こん・わじろう）

## 1、プロフィール

風俗・生活の全体を科学的に研究しながら、現在を記録し、それがどう変化するかを考察する考現学を提唱する。その他、家政学、服装史、民家論など、研究は広範多岐にわたっている。

<生没>

1888(明治 21)年7月 10 日 ~ 1973(昭和 48)年 10 月 27 日

<代表作>

『今和次郎集』全九巻。

<青森との関わり>

弘前に生まれる。東奥義塾中学卒業。洋画家今純三の兄。本県初の医学博士で北大総長を務めた今裕は叔父。

## 2、作家解説

1888(明治 21)年7月 10 日、弘前に生まれる。東奥義塾中学卒業後一家上京す。明治 40 年、東京美術学校図按科(現東京芸術大学)入学。叔父今裕の薫陶を受け、45 年、美校在籍のまま、早稲田大学建築学科の佐藤功一教授の助手となる。大正6年に佐藤功一(建築学)、柳田国男(民俗学)、牧口常三郎(地理学)、石黒忠篤(当時農商務省副業課長)らの白芽会に参加し、新渡戸稻造宅書齋で会合する。8年、石黒と全国の農村を歩き、民家を調査する。9年、早稲田大学教授となる。12 年関東大震災に遭い、これが、現在を記録し、それがどう変化するのかを科学的に調査・研究する考現学提唱の端緒となった。

昭和3年、井上とし子と結婚する。和次郎が家政学、服装史、生活学、生活改善と研究の領域を拡大していった背景には妻の影響があったという。和次郎の研究が、今日の生活文化、農村文化、社会調査分析などに及ぼした影響は大きく、

その原点的存在として評価されている。その集大成が47年に完結した『今和次郎集』全九巻である。

広範多岐な分野における活躍ぶりもさることながら、終生、イガグリ頭にノータイのジャンパー姿とズック靴で通したことでも有名だという。昭和48年10月27日、保谷市の自宅で永眠す。享年84。

### 3、資料紹介

○『今和次郎集』全九巻

図書

1972(昭和47)年

考現学、民家論、住居論、家政論、服装史、装飾原理、都市生態論、建築学など、今和次郎の研究を集大成した全集。一見脈絡のないどんな細かな現象も見逃さず、あくまで主観をさけ、事実をあるがままに冷静に丹念に記録し、膨大なデータを集大成して風俗や社会生活の全貌を明らかにした、と評者はいう。